

## ○ 議会活動の基盤について【議員定数】

会派	意見
<p>日本共産党 長岡京市議会 議員団</p>	<p>民主主義の発展を希求する立場から、多様な市民の意見を議会に反映させ、二元代表制の一翼としての機能を果たすには、議員の人数の確保は非常に重要と考えます。それを弱めかねない議員定数削減には基本的に反対です。財政面を理由に削減する事例も聞かれますが、本市財政は比較的安定しています。</p> <p>本市議会は平成14年度に全会一致で定数26と条例制定しました。平成25年度に24に減じた際には、日本共産党は反対しました。ただ、すでに24人で一定期間運営していることから、増員は求めず現状維持を提案します。</p>
<p>輝（かがやき）</p>	<p>まず、長岡京市の議員定数のあり方の論議について、これまでの経過を少し振り返ってみたいと思います。</p> <p>長岡京市議会の議会改革の取り組みは、平成24年長岡京市第1回議会定例会において、長岡京市議会基本条例を制定するなど、市民とともに歩む開かれた議会の実現を目指し、任期毎に様々な改革項目を設定して議会改革に取り組み、これまでに一定の成果をあげてきたところです。</p> <p>その中で、議員定数の項目については、平成23年10月から平成25年10月（以下「第Ⅰ期」という）に設定された検討項目で「議員定数のあり方と議員報酬について」の中でとりあげられて論議がなされ、各会派から様々な意見が出されたものの、議員定数については全会派が一致した結論を出すことが出来ずに、全会派の意見を併記することで検討完了となりました。</p> <p>しかしながら、平成25年長岡京市第2回議会臨時会において、平成25年5月7日に議員定数を26人から24人に改正する条例案が議員提出議案として提出され、賛成多数で可決し、この年10月の一般選挙から適用することになり、長岡京市議会の議員定数はそれまでの26名から2名減の24名で現在に至っています。</p> <p>平成25年10月の一般選挙後の議会運営委員会では、新しい議員さんへの交代もあったことから、議会改革検討項目のひとつとして平成25年10月から平成27年10月（以下「第Ⅱ期」という）に「議員定数のあり方」について論議がなされ、検討結果については「現状の24人とします」となりました。</p> <p>そして、今回、令和元年10月から令和3年10月（以下「第Ⅴ期」という）の期間での議会改革検討項目のひとつとして、過去2回検討されたものではありませんが、平成29年には一般選挙もあり、前回の論議からさらに議員構成も変化していることを踏まえて、私たちの</p>

<p>輝（かがやき）</p>	<p>会派「輝」から議員定数のあり方について論議すべきではとの考えで提起をさせていただいたところ、検討項目として設定をするかどうかの検討と並行して、市民の方から主旨を了としないことになりましたが、「長岡京市議会における適切な議員定数の検討を行うことを求める陳情」が出されたこともあり、最終的な検討の結果、「議会の活動基盤について」の中のひとつとして、論議いただくことになりました。</p> <p>そこで、会派「輝」の長岡京市議会の議員定数についての見解を、以下に述べたいと思います。</p> <p>会派「輝」は、第Ⅰ期と第Ⅱ期における議会検討項目としてあげられた議員定数については、22人が適切なものと考えて提案してきました。</p> <p>その根拠としては、長岡京市議会は委員会中心主義をもって議会運営を行っていることから、その議員としての専門性を発揮する常任委員会において、議員同士の討議性を確保するための最適な人数としては、正副委員長を含め7人が適切なものと判断し、3つの常任委員会×7人＋議長の計22人が、長岡京市議会における適切な議員定数と考えるところです。</p> <p>参考までに、元全国市議会議長会法制参事で、現(株)地方議会総合研究所代表取締役・明治大学政治経済学部講師・明治大学公共政策大学院講師の廣瀬和彦氏が示されている議員定数の基準の5つ（①常任委員会方式、②人口比例方式、③住民自治協議会方式、④議会費固定化方式、⑤類似都市との比較方式（人口規模・財政状況））の中では、①常任委員会方式をすすめられています。</p> <p>また、3つの常任委員会の構成人数も、それぞれ7人とすることで、各常任委員会のバランスも確保できるものと考えます。</p> <p>加えて、人口や産業構造により地方公共団体を類型分類する類似団体間での比較も重要な視点と考えます。</p> <p>直近で議会事務局にまとめてもらった資料では、人口75,000～85,000の類似団体（京都府内を除く）における議員定数の平均値は21人（人口平均は79,508人）となっていることから、長岡京市議会の議員定数22人は、適切な人数と言えると思います。</p> <p>これらのことから、会派「輝」では、長岡京市議会の議員定数を22人とすることで、議会の機能を適正に発揮していくために求められる性質としての、討議性、専門性、市民性、議会運営性が十分確保できるものと考えます。</p>
<p>平成市民クラブ</p>	<p>議会の機能強化や活動の充実により、市民の暮らしが良くなることが最大の役割と意義と考える。そこで、市民に開かれ議会を目指し議会改革をすすめている。二元代表制の一翼を担う議会として議員定数は、「現状維持」と「削減」の双方意見があり、常任委員会や特</p>

平成市民クラブ	<p>別委員会のあり方についても一体的に検討しなければならない。</p> <p>市民のための議会であることを大前提に、市民の意見の反映と持続可能な市政運営を重視した議論が重要である。従って、議員定数の検討の方針を行財政改革の視点でなく、市政の現状と将来展望を十分に考慮して検討すべきと考える。現状維持を否定するのなら2名減と考える。</p>
平成西山クラブ	<p>議員定数の削減によって、より政策が定まっている人や、能力が高いと判断される人だけが選挙で選ばれます。また、議員の数が減ることにより、話し合いがスムーズに進み、結論を早く導き出すことができる可能性もあります。</p> <p>さらに、議員報酬の総額が減ることにより、市民の税負担を軽減し、税金を社会保障へ回すこともできます。</p> <p>しかし「議会は地方公共団体の意思決定機関であり、議員定数を減らす議論よりも、むしろ議員の質をいかにして高め、民意の反映をどうするか議論のほうが大切である」「住民を代表して審議・決定するのだから、全住民を代表するにふさわしい数が必要である。したがって、少数精鋭よりも多数精鋭であるべきである」「議員が少数では、行政とのなれ合いの問題が起きやすくなる」「議員定数削減による経費削減と議会の監視機能、住民意思の反映等の両面を比較検討すべきである」という意見があることも承知しています。</p> <p>議員定数の「適切な数」は、なかなか割り出すことはできません。あえて算出するのであれば、よい議員提案の施策や条例が生み出されたときの議員定数が適切といえるかもしれませんが、その場合、よい施策、条例とは何かという問題が出てきます。</p> <p>議員定数をあと2人から4人くらいは減らせるのではないかと、感覚的な議論がされているように思いますが、「あのような働かない議員はいらない」と言われる議員であっても、別の市民から見れば働いていると映る場合もあるため、「2人くらい減らしても今と変わらない」と言われてしまうと元も子もないのが正直なところです。実際に2人欠員があったところで、市議会に何か困りごとが増えるかといえば「そういうわけでもない」事実が存在している限りは、定数の削減をするべきだと考えます。</p>
公明党 長岡京市議会 議員団	<p>平成25年に定数26名から2名減の24名になってから現在まで現状維持の考えは変わらず、これ以上、定数を削減することは現在において多様化する市民のニーズや声が市政に反映されなくなる可能性が大きい。市は財政的にも逼迫する状況ではないことから、議員定数は引き続き現状維持の考えである。</p>
平成自由クラブ	<p>他の市町村では、人口1,300人程で議員定数が8人のところや、人口2,700人程で議員定数が10人のところもあり、この数字から見ると、議員一人に200人程度と、顔が見えるくらいの代表</p>

平成自由クラブ

というところもあります。

長岡京市は、人口約81,000人、議員定数は24人であり、議員一人当たり約3,300人です。議員定数にあらかじめ用意された「正答」はありません。また、絶対基準もありません。現状の水準は過去の経緯の積み重ねによって成立しており、その経緯はその時期の事情や判断を反映しながら組みあがってきたものです。類似都市との人口規模比較方式の平均値もありますが、合併で減員となった市等、さまざまな経緯があります。平成25年に定数26人から2人減の24人となり、それが現在の議員定数となります。会派内で減員や現状維持の議論を重ねた上で、多様化する市民ニーズ、市民の声を聞くことなどを考えると現状の議員定数でよいのではないかと考えます。